

2018年度第1回新潟競馬特別レース名解説

<第1日>

○ ゆきつばき賞

ゆきつばきは、ツバキ科の常緑低木。新潟県の県木に指定されている。日本海側の多雪地帯の山地に自生する。ヤブツバキに似ているが、花卉はやや薄く離生するものが多い。

○ 邁進特別

邁進（まいしん）は、ひたすら目的に向かって進むこと。新潟競馬場の直線コースを、競走馬がひたすらゴールを目指して進むイメージから名付けられた。

○ 春日山特別

春日山（かすがやま）は、新潟県上越市の町。戦国時代の武将、上杉謙信の居城であった春日山城跡が有名。春日山城は、南北朝時代に築かれた要塞を、謙信の父・長尾為景が改築、整備した山城。江戸時代に堀氏が新たに居城を築城したため、慶長12年（1607）に廃城となった。

<第2日>

○ 五泉特別

五泉（ごせん）は、新潟県中部の市。阿賀野川中流域に位置する。織物産業が盛んで、五泉平と呼ばれる袴地が有名。京都の丹後、滋賀の長浜とともに全国三大白生地産地に数えられている。

○ 谷川岳ステーキス

谷川岳（たにがわだけ）は、群馬県と新潟県の境にある山。標高1,977m。一ノ倉岳・万太郎山・茂倉岳などとともに谷川連峰を形成している。険しい岩壁や複雑な地形が入り組んでおり、ロッククライミングのスポットとしても有名。

○ 中ノ岳特別

中ノ岳（なかのだけ）は、新潟県南東部、越後山脈中にある山。標高2,085mは、越後駒ヶ岳、八海山とともに形成する越後三山の最高峰。急峻な岸壁、鋭い山稜、越年性雪渓のある山容が特徴。

<第3日>

○ わらび賞

わらびは、コバノイシカグマ科のシダ植物。疎林や日当たりのよい山地に生え、早春、先端がこぶし状に巻いた新芽が地下の根茎上から直立して芽吹く。根茎は砕いてデンプンとして用いられ、このデンプンからわらび餅が作られる。

○ 駿風ステーキス

駿風（しゅんぷう）は、駿馬の「駿」と春風の「風」とを掛け合わせた造語。新潟競馬場の直線コースを駿馬が風のように走るイメージから名付けられた。

○ 二王子特別

二王子（にのうじ）は、新潟県の北東部、胎内川上流にあたる飯豊連峰にある山。標高1,420m。溪谷美で知られる胎内川などとともに胎内二王子県立自然公園を形成している。

<第4日>

○ 三条特別

三条（さんじょう）は、新潟県中央部の市。加茂市と燕市の間に位置する。泉州堺（大阪府堺市）、播州三木（兵庫県三木市）と並ぶ日本三大金物町であったため、現在でも金属加工を中心とした産業が盛んである。

○ 新潟大賞典（GⅢ）

本競走は、昭和42年から53年にかけて実施されていた『福島大賞典』（53年は『新潟ステーキス〈第12回福島大賞典〉』の名称で実施）の廃止に伴い、54年に創設された重賞競走。当初は2000mのハンデ戦であったが、59年に2200mに延伸された。平成7年から再び2000mに変更となり現在に至る。

○ 八海山特別

八海山（はっかいさん）は、越後山脈の一峰。標高1,778m。越後駒ヶ岳、中ノ岳とともに越後三山と称され、山頂部は険しい岩峰で形成されている。御岳行者が修行を積む霊峰として有名。地酒ブームの火付け役となった銘酒八海山もこの山から命名されている。

<第5日>

○ はやぶさ賞

はやぶさは、ハヤブサ科の鳥。背面が青灰色で、腹面は白地に褐色の斑点があり、目の下に暗色斑が伸びている。くちばしは鋭く曲がり、翼は長くて先が尖っている。

○ 火打山特別

火打山（ひうちやま）は、新潟県南西部にある山。標高 2,462m。頸城三山の最高峰で、妙高山と新潟焼山の間位置する。名は、山容が火打石に似ていることに由来すると言われている。

○ 石打特別

石打（いしうち）は、新潟県南魚沼市の一地区。深雪地帯で、冬はスキー場に多くの観光客が訪れる。

<第6日>

○ 胎内川特別

胎内川（たいないがわ）は、新潟県と山形県の境を流れる川。延長 39.1 k m。飯豊山地の二王子連峰に源を發し、北西に流れ、人工分水で日本海に注ぐ。

○ 赤倉特別

赤倉（あかくら）は、新潟県南西部、妙高市にある温泉地。文化 13 年（1816）に高田藩主榊原氏が開湯したことに始まると言われる。泉質は、硫酸塩と炭酸水素塩の 2 つの泉質を併せ持っており、効能は多岐にわたる。秋の紅葉や冬のスキーシーズンには多くの観光客が訪れる。

○ 飛竜特別

飛竜（ひりゅう）は、空を飛ぶ竜のこと。「飛竜天に在り」とは聖人が天子の位にあって、万民がその恩沢を受けるという意味である。

<第7日>

○ 早苗賞

早苗（さなえ）は、苗代から田に移し変える時期の、稲の若い苗のこと。

○ 大日岳特別

大日岳（だいにちだけ）は、新潟県北部にある飯豊山地の最高峰。標高 2,128m。近くには飯豊山、北股岳などの 2,000m級の山々が連なっている。

○ 荒川峡特別

荒川峡（あらかわきょう）は、新潟県北部の岩船郡を流れる荒川の上流の峡谷。溪口は荒川峡温泉郷が広がっている。また、並行して走る国道 113 号線は、新緑シーズンから紅葉シーズンまでドライブコースとして人気がある。

<第 8 日>

○ 高田城特別

高田城（たかだじょう）は、慶長 19 年（1614）に徳川家康の六男、松平忠輝によって築かれた城。城の縄張りと工事の陣頭指揮は松平忠輝の舅（しゅうと）である伊達政宗が行った。同城は明治 6 年に廃城となったが、平成 5 年に上越市発足 20 周年を記念して三重櫓（やぐら）が再建された。

○ 韋駄天ステークス

韋駄天（いだてん）は、仏教の一神。仏舎利を盗んだ鬼を追いかけて捕まえた挿話から、「足の速い人」の意で用いられる。

○ 湯沢特別

湯沢（ゆざわ）は、新潟県最南端の町。三国街道の宿場町として栄え、古くから温泉と観光の町として有名。苗場などのスキー場があり、首都圏から多くの観光客が訪れるリゾート地となっている。また、川端康成の小説『雪国』の舞台でもある。